

## 平成30年度 第2回匝瑳市市民協働推進協議会 会議結果概要

- 開催日時 平成30年11月1日（木） 午後3時から午後4時30分まで
- 場 所 市民ふれあいセンター 会議室
- 出席委員 鎌形廣行委員、木内千鶴委員、大木三喜男委員、越川竹晴委員、勝又康之委員、林誠委員、加瀬功一委員、森田俊一委員（8名）名簿順  
（欠席委員）大木すみ江委員、中村謙委員、尾原和夫委員（3名）
- 市出席者 太田安規市長  
（事務局／環境生活課）加瀬課長、奥田副主幹  
（市民活動サポートセンター）伊藤

発言者	内 容
委員 事務局	<p><b>1. 開 会</b></p> <p><b>2. 委嘱書交付</b></p> <p><b>3. あいさつ（太田市長）</b></p> <p><b>4. 自己紹介</b></p> <p><b>5. 議 事</b></p> <p>（1）会長、副会長の選出について 《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から案はあるか</li> <li>・会長には匝瑳市社会福祉協議会会長である鎌形様、副会長には匝瑳市区長会会長である大木様を提案いたします。</li> </ul> <p>《異議なしの声多数》 会長に鎌形廣行委員、副会長に大木三喜男委員が決定した。</p>
事務局 委員	<p>（2）匝瑳市市民協働推進協議会の目的及び今後の予定について 匝瑳市市民協働推進協議会の目的及び今後の予定について事務局より説明 《各委員からの質問・意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「協働」の捉え方がまちまちである。協働のテーマは「市民参加」であると考えますが行政は市民を拒絶しているように感じる。市民を参加させるための協働であるので、市民が参加しなければ協働にはならないが、なかなか難しい。特に行政サイドは、行政内でもワーキンググループを組んで作業しているようだが、そこには市民は参加していない。市民の声が反響されない。行政は前例踏襲で動いているが、それをやめてほしい。リスク、失敗はあるが</li> </ul>

議 長	<p>新しいことに挑戦すること、行政の意識改革を言葉だけではなく実際に行ってほしい。講演会なども市民の声を聞ける場にしてほしい。</p>
市民活動サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民活動サポートセンターでは、これまでに匝瑳市市民提案型事業の相談を受けた中で、行政の前例になく「協働」には適さないと判断した事業があったか。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当課から相談を受け、ボランティアの範疇で事業が行えるものではないかと判断した事業はあった。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワーキンググループの進行状況や結果はでているか。</li> </ul> <p>《ワーキンググループ進捗状況・庁内における協働の推進について説明》</p>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回会議に進捗状況を資料にして提出してほしい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働指針を見ると、これはもしかしたら匝瑳市の協働は順番を間違えて始めてしまったのではないかと思っている。先程、委員より「市民を参加させるための協働」と発言があったが、目的があり、その目的のために協働を使うなら理解できるが、協働を目的にしてしまったため、市職員も何を行ったらいいいのか悩んでいるのではないか。協働を「目的」から「手段」に替えて具体的に何をしたらいいか考えないと協働が上手く回らない。問題に対してどのように協働を使うのかを考えなければいけない。後程議事が出てくるが、提案書の評価も基準があれば評価できるが、今は自分の気持ちだけで1から5までの数字を付けている。これでは本当の審査ではないと思う。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料7頁にある「平成31年5月」という表現が不適切である。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>「新元号5月」などの表現にしてはどうか。</li> </ul>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局にて調整願う。市内では様々な事業を行っていて、匝瑳市市民提案型事業に申請してもいいと思う事業も沢山ある。しかし、申請するまでには何か垣根があるように思う。その垣根が何なのか紐解いていくと太田市長や委員の考える協働に結びつくのではないかと考えている。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年11月に組織が立ち上がってまだ纏まらないのか。是非スピードアップしてほしい。</li> </ul>
事務局	<p><b>(3) 匝瑳市市民提案型事業について</b></p> <p>①平成29・30年度匝瑳市市民提案型事業について</p> <p>②匝瑳市市民提案型事業助成金交付要綱について</p> <p>③提案書（公開プレゼンテーション）の審査方法について</p> <p>一括して事務局より説明</p> <p>《各委員からの質問・意見》</p>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案書の審査方法について、市民協働指針のなかにある「市民協働のPDCA」管理のサイクルを回しなさいと書いてある。このPDCAを点数化して評価基準に導入することで、私感ではなく公平に各委員が評価できると考える。</li> </ul>

議 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局は事前に意見をいただいた場合その都度調整し、委員の意見を取り入れて次回の協議会を開催していただきたい。</li> </ul>
事務局	<p>(4) その他</p> <p>《事務局・サポートセンターから委員へ提案及び依頼》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各委員からも協働推進に係る事業などご意見があれば、次回の協議会でご提案いただきたい。また、匝瑳市市民提案型事業助成金交付要綱についても、内容の見直しが必要な箇所があればご意見いただきたい。サポートセンターとしても、市民から提案の相談を受けるなかで、要綱内容が厳しく提案者の負担と感ずる場合がある。行政目線での見直しを行うのではなく、委員の皆様からご意見をいただき、これを市民の声として取り入れることを検討したい。</li> </ul>
議 長 サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サポートセンターの張り紙などを見て、市民の反応はいかがか。</li> <li>・市民からは「ここではどのような仕事をしているのか。市民協働とはどのようなことをするのか」と聞かれる。その都度、地区の課題解決に向けて話し合いを行うが、相談者が地区に戻り協働での解決について話すのは難しいようである。今後は、相談を受けた地区にサポートセンターから出向いて説明をすることも検討していきたい。</li> </ul>
委 員 サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民協働レポートがなぜ回覧で配られないのか。配っていただくにはどうしたら良いのか。</li> <li>・年度当初は作成する予定ではなかったが、匝瑳市市民協働推進協議会委員で市民協働まちづくりの会会員である方から、レポートの作成提案及び作成のご協力をいただき発刊した。次年度は全戸配布するよう検討したい。</li> </ul>
委 員 サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予算が無くて全戸配布できなかったのか。</li> <li>・はい。</li> </ul>
<p><b>6. 閉 会</b></p>	
<p>以 上</p>	